

ゆきかう那賀川推進会議の  
今後目指すべき取組（案）

## ゆきかう那賀川推進会議の今後目指すべき取組（案）

### ゆきかう那賀川推進会議の設立趣旨

○ゆきかう那賀川推進会議は、平成19年5月、「安全で安心できる那賀川水系の未来が拓ける川づくり」を基本理念とした「那賀川水系河川整備計画」が策定され、この計画を着実に実施し、**那賀川流域の発展につなげていくために、上下流の様々な課題を流域全体で認識し、流域関係者が一丸となって取り組むことが極めて重要**であることから、**流域内交流の活性化、上下流連携の推進による流域振興**を目指して、流域関係者による「ゆきかう那賀川推進会議」を平成20年3月に設立した。

### ゆきかう那賀川推進会議の役割（規約第2条）

**「那賀川流域における関係者が集まり、流域内の交流・連携のに関して、情報共有、意見交換、企画、相互協力等を行い、流域の振興を図ることを目指す」**

となっている。

これは、流域民間団体、国土交通省、徳島県、徳島県企業局、阿南市、那賀町、学識経験者により、

- ・ 企画：子供たちが参加出来る交流イベントの企画→バスツアー、
- ・ 発信：情報発信の充実→出前講座、パネル展、HP等、
- ・ 連携：流域関係者へのさらなる参画のよびかけ→（具体的な取組がない）
- ・ 支援：流域内の交流や地域おこしに取り組んでいる団体や人々の活動の支援  
→源流碑開き、源流コンサート、センチュリーラン

ということでもいろいろな取組をやっていました。

第16回会議において、令和5年度以降さらに新たな取組を考え、上下流交流を進めていこうと  
しているところです。

# ゆきかう那賀川推進会議の今後目指すべき取組（案）

## ゆきかう那賀川推進会議の課題

- ①ゆきかう那賀川推進会議を立ち上げた時、いろいろな取組をしていこうということにはなっているが、それは何を指すのか、どういう那賀川にするのか、「上下流交流の推進」という定義は何かなどは具体的には示されていない。
- ②第16回ゆきかう那賀川推進会議の中で、「取組を物語化していくところに推進会議の価値がある」との意見より各取組における「物語」が必要
- ③ゆきかう那賀川推進会議の役割の中にも「流域関係者へのさらなる参画のよびかけ」というのがあるが、この取組が現状として出来ていない。



個々の取組の目指すべき最終の姿がはっきりしていないため、物語化が難しい



那賀川鉄橋（JR橋）上流右岸側の状況（川の利用がされていない）



現在の那賀川には人の姿が少ない。河川利用団体も少ない



大京原橋下流右岸側の状況（人の姿が見えない）

## ゆきかう那賀川推進会議の今後目指すべき取組（案）

### ゆきかう那賀川推進会議の課題解決に向けて

#### ○那賀川を中核に地域の交流人口を増やす

那賀川水系河川整備計画における那賀川の基本理念→ゆきかうの理念

- ・相互理解が図られた地域住民による流域づくり

本支川及び上下流間バランスを考慮した水系一貫のもと、上・下流域の交流が活発に行われ、相互理解が図られるとともに、流域の人々が河川とのつながりを再構築できる流域作りを目指す。

#### ○物語化をするための起・承・転・結

起・承→何かをする、つづくものがどうで、それがどうなる。

転→（さらに）こういうこともある

結→結果こうなる（「かわまちづくり」）

#### ○阿南市、那賀町の状況を背景とした「かわまちづくり計画」として考えていく

交流人口を増加させるためには、流域治水と同じように、ゆきかう那賀川推進会議関係者及び取組者が各方面で一体的に取り組んでいくような形が必要で、那賀川全川を「かわまちづくり」のような計画を考え進めていく

かわまちづくりとは、『かわ空間とまち空間が融合した、良好な空間形成を目指す取組』のことです。「かわ」の魅力を活かし、「まち」と一体となったソフト施策やハード施策を実現することで、水辺空間の質を向上させ、地域の活性化や地域ブランドの向上などの実現を目指します。

# ゆきかう那賀川推進会議の今後目指すべき取組（案）

## 起→SUPによる河川利用の推進

○阿南サップタウンプロジェクトとして、阿南市は「光のまち」、「野球のまち」に続き、「SUP TOWN ANAN」として、河川でもSUPの利用に力を入れている。→令和5年9月17日（日）淡島海岸で「西日本SUP選手権開催」。

○那賀町でも民間のグループが那賀川の中流域や川口ダムでもカヌーと同様SUPの利用を進めている。

○SUPは那賀川上下流で取り組んでいることから交流人口増につなげる河川利用の格と考える。

○阿南市ではSUPから人口増→地域環境をよくする→地域経済貢献という方針があり、SUPからの移住にも力をいれている。那賀町においても、博報堂と協定を結び、移住促進、空家対策に取り組んでいることから、そうしたことと連携した取組としていく。

○SUP以外のカヌー、ラフティング、河川周辺・ダム周辺のサイクリング、河川上でのドローン、水辺プール、サーフィンなどによる河川利用の推進をもあわせて進める



阿南SUPタウン  
プロジェクトパンフ)



西日本SUP選手権  
3-5 In SUP TOWN ANAN



川口ダム湖カヌー・SUP  
施設愛称発表会

## ゆきかう那賀川推進会議の今後目指すべき取組（案）

承→そのために、それが出来る場所を「川の駅」というような拠点として位置付け、那賀川全川に広げていく。

- ・ 拠点は那賀川全川（阿南市、那賀町）を対象に設置する。
- ・ 拠点でイベントの実施。那賀川フェスティバルとして、地域ごとに順番で行う。
- ・ 日常的には、キッチンカーによる地場産の販売、水辺カフェにより河川利用にプラスする。
- ・ ダム貯水池を使ったイベント（川口ダム、長安口ダム、小見野々ダムの連携）。
- ・ 地域イベントとの連携：旧万代祭、加茂谷鯉祭り、楠根桜まつり、なかまつり、わじき夏まつり、紅葉まつり、川口ダムのイベント、上那賀・木沢における魚のつかみ取り、平谷の花火大会、木頭の本杉乗り。



筑後川のめぐみフェスティバル  
（福岡観光連盟ホームページ）  
毎年担当市町村が変わって実施している



ミズベリング（水辺カフェ）



川口ダムのイベント  
丸太走り大会



加茂谷鯉祭り

## ゆきかう那賀川推進会議の今後目指すべき取組（案）

### 転→川の中だけでなく、那賀川周辺と連携して河川の利用促進を図る。

#### （下流域）

- ・ 那賀川周辺の歴史施設とのPR連携→（例）遍路道（かも道）歩き
- ・ 那賀川マラソンの新設など→（例）吉野川を走る徳島マラソン

#### （上流域）

- ・ 水源地の保全を考えた山や森林の必要性の理解を深める取組  
→木育、間伐体験、写真展など
- ・ 那賀町の山々は那賀川源流である次郎笈、那賀川周辺の石立山などのトレッキングで人気コースとの連携
- ・ 高の瀬峡の紅葉狩り→県内外から多くの人がある時に河川にも誘導
- ・ 那賀町は滝王国と呼ばれており、名瀑の紹介・PR（大釜の滝は日本滝百選の滝）
- ・ 石焼き、鹿肉イベント→地元の料理を使った河川イベント。  
（例）早明浦ダムの謝肉祭
- ・ 野猿の復活→（例）仁淀川の吊り橋とジップライン

#### （共通）

- ・ 那賀川の橋を紹介し、那賀川をPR  
→「阿波の八郎86橋」などとして紹介（案～）
- ・ 那賀川86箇所風景選定し、那賀川をPR  
→那賀川には「鷺敷ライン」など美しく、珍しい風景があるため、それをPR

## ゆきかう那賀川推進会議の今後目指すべき取組（案）

### 結→それを那賀川全川「かわまちづくり」として取り組んでいく。

「かわまちづくり」とは、『かわ空間とまち空間が融合した、良好な空間形成を目指す取組』のことです。「かわ」の魅力を活かし、「まち」と一体となったソフト施策やハード施策を実現することで、水辺空間の質を向上させ、地域の活性化や地域ブランドの向上などの実現を目指すものです。

○テーマ（案）：まるごと那賀川河川交流拠点構想  
(WHOLE NAKAGAWA RIVER EXCHANGE BASE)

○合い言葉（案）：オールカマーズ那賀川  
～みんなこいこい那賀川へ～

#### ○かわまちづくりで目指すもの（案）

- ・ 那賀川に人を呼び込み、交流を増やす  
→河川への親しみを増やすことで「ふるさとの川」として記憶に残すようなことを目指す
- ・ 川にくる人を増やすことで、阿南市、那賀町の人口減少を抑える。  
→移住、空き家対策の促進を図る。また、そういう人たちにより、阿南市では農業やシャッター通り商店街の再生を図り、那賀町では林業や衰退している飲食業を再開させるなどに連携したまちづくりを目指す。



## ゆきかう那賀川推進会議の今後目指すべき取組（案）

（今までのかわまちづくり）長安口ダム かわまちづくりについて

長安口ダムかわまちづくり①（国・那賀町 平成29年～令和3年）

かわまちづくり（国・那賀町 平成29年～令和3年）

○長安口ダム本体改造工事にあわせ、以下の施設を整備。

- ①長安口ダム下流側右岸展望所
  - ②長安口ダム下流側左岸展望所
  - ③ドローン広場（長安口ダム下流600m）
  - ④ポケットパーク（自転車ラック等、貯水池周辺4箇所）
- ダム見学者増に伴い、周辺地域の活性化  
→ ドローン特区の利用促進  
→ サイクリストの利用促進



長安口ダムを中心に那賀町の地域活性化につなげていく



右岸展望所



左岸展望所



ドローン広場



ポケットパーク

## ゆきかう那賀川推進会議の今後目指すべき取組（案）

（これからのかわまちづくりとして）長安口ダム かわまちづくり（案）について

### かわまちづくり②（国・徳島県・那賀町）

長安口ダムは多目的ダムとして、予備放流方式の有した治水機能を持つ那賀川唯一のダムでもあることから、湖面利用が進んでいなかったが、かわまちづくりにあわせ、貯水池の愛称を公募し、「なか四季美湖」として、令和4年5月に公表、今後「なか四季美湖」をPRし、貯水池利用を進めようとした。

ゆきかう那賀川推進会議では令和5年度以降の取り組むとして、なか四季美湖を活かした取組を検討することとしている。そこで、長安口ダムかわまちづくり第2幕は「なか四季美湖を中心」に取り組んでいくこととする。

#### 【進め方のコンセプト(案)】

##### ①那賀川の3ダムを3兄弟として捉える（3ダム連携）。

長男「長安口ダム」、次男「川口ダム」、3男「小見野々ダム」として、湖面利用が進んでいる「川口ダム」で実施していることを「長安口ダム」でも出来るようにし、将来は小見野々ダムもあわせ利用できるようにする。

→例：SUP・カヌー等の一般利用、競技利用等、湖面イベント、スマート回廊ができるようにする

##### ②なか四季美湖での拠点箇所の整備する

湖面利用に必要なものは、水際におりる坂路・階段（護岸）、駐車スペース、トイレ・水・管理所候補箇所は、那賀川はビーバー館、大戸（流木置場）、木頭森林組合付近、旭出坂路、平谷坂路（大殿橋上流）、坂州木頭川は川尻坂路、十二社坂路

##### ③地域での活動者との連携方法、地域産業へつなげる仕組みを作る

SUPなどを行っている河川利用団体や地域イベントと持続可能な連携方法、湖面利用を考え、移住や空屋対策に役立つ仕組み、地域の産業である「林業」・「農業」につなげる仕組みを作っていく。

## ゆきかう那賀川推進会議の今後目指すべき取組（案）

### ○ゆきかう那賀川推進会議で目指すもの

交流人口を増やす→拠点整備→まちづくりと連携→那賀川全川かわまちづくりを目指す

### ○かわまちづくりを進めるための 7つのポイント（案）

#### ① SUPを通じ、上流から下流まで「川の駅」を設置し、それを那賀川の拠点ネットワークとしを結ぶ

→SUP、カヌーなど水面利用できる施設を整備し、それを拠点としたネットワークを作る。

#### ② 阿南市、那賀町と連携し、SUP等の河川利用から人口増を図り、担い手不足が懸念される阿南市の基幹産業である「農業」（米作りなど）、那賀町の基幹産業の「農業」（花作り）、「林業」などと連携していく。

→林業は、森林の大切さを理解してもらい「木育」などとも連携していく。

#### ③ その拠点は河川敷公園など、河川利用が出来る場所と連携し、水辺利用を促進する

→河川敷公園の復活。

#### ④ その拠点に水辺カフェ・マルシェ（キッチンカーなどの利用）、トラック市などに利用し、河川利用の効果をあげる。

→河川空間のオープン化を目指す。「都市・地域再生等利用区域」を指定して、営業活動を行う事業者等も河川敷地の利用を可能としたもの。

#### ⑤ 河川イベントとの連携及び新規イベントの開発などでその拠点での特色を出す。

→楠根桜まつり、加茂谷鯉まつり、水神社古庄まつり、ナカまつり、木頭の一本杉乗り等

#### ⑥ 那賀川とその地域の歴史・文化との融合した地域マップの作成

→水神社、ガマン堰、万代堤、南岸堰、那賀川橋、かも道（遍路道）、若杉山辰砂採掘遺跡、太龍寺、那賀川ホットスポット（那賀川河口、出島、加茂谷の奥地）・・・

#### ⑦ 那賀川86箇所の選定

→那賀川（河川区域内）でポイントなる場所を86箇所公募し、那賀川をPR。

## ゆきかう那賀川推進会議の今後目指すべき取組（案）

○「川の駅」（拠点(案)）としての整備候補箇所は、河川敷公園や低水部に既存施設等がある場所と連携を図る。

### ・阿南市（8箇所）

#### 【右岸側】

- ①河口（サーフィンと連携、最下流端）、
- ②右岸JR橋上流（多目的広場箇所）
- ③中大野の側帯（ガマン堰の一番下流側）
- ④加茂谷堤防（加茂谷川合流部）

#### 【左岸側】

- ⑤なかちゃん公園（河川敷公園）
- ⑥羽ノ浦桜つつみ公園＋明見の河川敷公園
- ⑦楠根さくら堤公園＋南岸堰上流河川敷
- ⑧水井橋付近（遍路道ある所）

### 那賀町（6箇所）

- ①道の駅鷺の里（河川敷）
- ②B&G鷺敷海洋センター＋鷺敷野外活動センター
- ③川口ダム（あじさい湖）
- ④長安口ダム（なか四季美湖川尻、十二社、平谷、出合付近、大戸など）
- ⑤平谷（坂路改修場所）
- ⑥旧木頭村の河原（木頭文化会館の裏手で木頭の一本乗りをしている箇所）